

科目名		デッサン基礎B						年度	2025
英語科目名		Rough Sketch Fundamentals B						学期	後期
学科・学年	マンガ・アニメーション科四年制 1 年次	必／選	必	時間数	120	単位数	8	種別※	演習
担当教員	水野裕佳	教員の実務経験		有	実務経験の職種		画家		
【科目の目的】 デッサンの基本的要素を理解し、物の見方や基礎画力の向上を目的とする。									
【科目の概要】 人物の基礎的な描画技法などを学び、描画力を高めます。									
【到達目標】 デッサンの基本的要素(構図、明暗の階調、質感、量感、遠近感など)を理解する。また、自分の絵を客観的に見られるようにするとともに、ものを見る力（観察眼）を養うことで同様に自身の作品に反映させることができるようになる。色彩を用いてデッサンの基本的要素(構図、明暗の階調、質感、量感、遠近感など)を理解する。また、自分の絵を客観的に見られるようにするとともにものを見る力（観察眼）を養うことで同様に自身の作品に反映させることができるようになる。彩色画の基本的なテクニックを身につける。									
【授業の注意点】 授業開始時に実技のポイントなどを説明するので遅刻厳禁。クロッキー帳、水彩色鉛筆、練り消しゴムは毎回持参すること。課題作品はできるだけ授業時間内で仕上げるように留意すること									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	構図、明暗の階調、質感、量感、遠近感を完璧に理解し、複雑な作品に適用できる。	基本的要素を正確に理解し、一定の複雑さを持つ作品に適用できる。	基本的要素の一部を理解し、単純な作品に適用できる。	基本的要素の理解が浅く、作品への適用に制限がある。	基本的要素の理解が不十分で、作品への適用が困難。				
到達目標 B									
到達目標 C									
【教科書】 参考書・参考資料等は授業中に指示する									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 授業内容の理解度をレポートを提出して評価する。また積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		デッサン基礎B			年度	2025
英語表記		Rough Sketch Fundamentals B			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	ガイダンス、鉛筆での明暗の階調	基本的な道具の使い方を学ぶ	1 実習	デッサンをする上での道具や用具の使い方について理解する	3	
2	幾何形体を描く	光源について理解する	1 実習	基本的なデッサンのプロセスを理解する	3	
3	幾何形体を描く	光源について理解する	1 実習	明度の違いについて理解する	3	
4	幾何形体を描く	光源について理解する	1 実習	構図に注意し、遠近感を出すことに考慮する	3	
5	物を持つ手を描く	複数のモチーフを描けるようにする	1 実習	形態の把握と質感の違いを理解し、表現に結びつける	3	
6	ピンを描く	透明感のある物の描き方を学ぶ	1 実習	透明感のある物の描き方を習得する	3	
7	静物デッサン	複数のモチーフの関わり方を理解する	1 実習	構図と質感を考慮して描写する	3	
8	静物デッサン	複数のモチーフの関わり方を理解する	1 実習	空間の認知	3	
9	石膏デッサン	石膏デッサンの基本プロセスを理解する	1 実習	基本的な石膏デッサンのプロセスを理解	3	
10	石膏デッサン	石膏デッサンの基本プロセスを理解する	1 実習	質感・量感・明度に注意し存在感を出す	3	
11	石膏デッサン	石膏デッサンの基本プロセスを理解する	1 実習	形態の把握と質感表現	3	
12	紙風船を描く	色や質感を鉛筆で表現できるようになる	1 実習	質感や色味の表現を理解する	3	
13	想定デッサン	光源を想定し形をとることができる	1 実習	イメージの表現の仕方を理解する	3	
14	人物スケッチ	プロポーションと質感表現を学ぶ	1 実習	人体のプロポーションを理解する	3	
15	人物スケッチ	プロポーションと質感表現を学ぶ	1 実習	人体のプロポーションを理解する	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等